

第4章 地域の生活上の不安と、痴漢に対する不安

若者が生活している地域や学校への通学途中で、各種の犯罪からの被害に遭う不安をどの程度感じているかを調べ、その不安との対比で、ストーカーや痴漢からの被害不安の程度を秤量することを試みる。

痴漢被害としては最も多い、通学途中の乗り物内の被害と、住んでいる地域で痴漢に出会う不安の2種について設問した。またストーカーからの被害としては最も多い、つきまといストーカーへの不安を設問した。それらと対比される犯罪被害としては、居宅に泥棒が入る、地域を変質者がうろつく、干してる女性用下着を盗まれる、ちいきや通学路でたかり等暴力的被害にあう、の4種を示した。

これらの犯罪被害にたいする不安の程度を、1、不安がある、2、ややある、3、不安なし、の3選択肢から選ばせた。

1. 7種の犯罪被害への不安感の全体的傾向

まず各犯罪への「不安がある」と、「ややある」を合計して一覧表にすると、次の表4-1になる。

表 4-1 各犯罪に対して「不安がある」+「ややある」割合(%)

	高校; 男		大学; 男	
	女	女	女	女
地域で夜、痴漢に遭う	14.1	57.4	21.1	70.5
通学の車中で、痴漢に遭う	14.1	59.4	21.7	63.6
ストーカーに付きまとわれる	12.4	24.1	13.8	31.7
干してる女性下着を盗まれる	10.2	16.3	13.5	21.9
地域を変質者がうろつく	37.0	73.9	43.1	73.1
たかり等暴力的被害に遭う	39.8	37.7	48.8	39.8
自分の家に泥棒が入る	25.9	26.1	40.9	46.5

この結果から、青少年の持つ犯罪等被害に対する不安感として、次のような特徴的傾向がみられる。

① まず男女の回答を比べる。当然のことながら、男女の別で不安の程度に差のある被害と、差が見られない被害がある。

男性よりも女性の方が不安を持っている者が多い犯罪被害は、地域、通学路での性的被害で、具体的には痴漢、変質者、ストーカーなどである。これら3種の被害については、高校生・大学生とも女子の半数以上が不安有りと答えている。

逆に女性よりも男性の方が不安を持つ者が多い犯罪被害は、高校生では無く、大学生ではたかり、おどし、暴力の1項目だけであった。青年男子の場合実際に、繁華街等でこの種の被害を受けることが、女子よりも比較的多い実状が回答に反映しているのだろう。

男女で被害不安に差が無い項目は、自分の家が泥棒に入られる不安があった。

② 高校生と大学生の回答を比べる。男子の場合はどの項目に関しても、大学生の方が不安を持つ割合が高い。女子の場合は、変質者と、たかり被害に関しては大学生と高校生で違いが無いが、その他の項目については大学生の方が高い。

何故概して大学生の方が不安が高いかの理由としては、痴漢やその他の犯罪発生について大学生の方が知識を持っている、あるいはこれまでに被害にあったり、被害に関する見聞がある、調査対象になった大学生には首都圏で独りで下宿等が多い、等の理由が考えられる。また女子の場合、痴漢等性的被害については、高校生よりも当然過去の体験率が高くなるので、その影響もあろう。この点は後に触れる。

③ 痴漢・ストーカーへの不安と、その他犯罪被害への不安

以上の全体的傾向を踏まえて、主題とする痴漢等への不安の程度を、その他犯罪被害への不安との対比で考える。

各種の犯罪被害に対する不安の高低を評定しようとする場合、不安の基準になる犯罪が特定されてはいない。しかし犯罪の原形が泥棒だと見るならば（人々に

最も身近な自然犯でもあり、発生頻度も高い)、自宅への泥棒被害への不安を基準に、その他の各種犯罪被害に対する不安の程度を評定することは、人々の間で了解しやすい、あるいは各自がイメージしやすい表現だろう。

その泥棒への不安の程度は先に示すように、男女で違いが無いので、この不安の程度を基準にその他の犯罪への不安の程度をみると、基準の男女差を考慮する必要がなく便利でもある。ただしこの泥棒への不安の程度は高校生と大学生では違いがあった。すなわち不安ありの割合は、高校生(男女とも25-6%)よりも大学生(男女とも40-45%)では高い傾向にある。その泥棒への不安の程度を基準にすると、痴漢(地域と通学の車中の2種とも)への不安の方が、女子では高く(高校生は6割近く、大学生は6-7割)、男子では低い(高校生は10数%、大学生は20%余)。一方ストーカーへの不安は、男子は当然として、女子でも泥棒への不安を下回る。ストーカーが痴漢ほどには被害の頻度が多くな、身近な犯罪でないからであろう。

なお変質者への不安が、女子では調査した7項目中1位に高く、男子でも2位に高い。この変質者への不安の程度を、その他の犯罪被害への不安程度と比べると、女子にとって変質者は痴漢に類縁の存在と想像され、男子にとっては痴漢と別の犯人像が想定されているようにみえる。

2. 各犯罪行為別に見た、被害不安

以上調査した7項目全体を通じての回答結果を分析した。以下、各行為別に結果を見ることにする。男女別、高校生・大学生の別に、回答分布を図示すると、図の4-1から7になる。

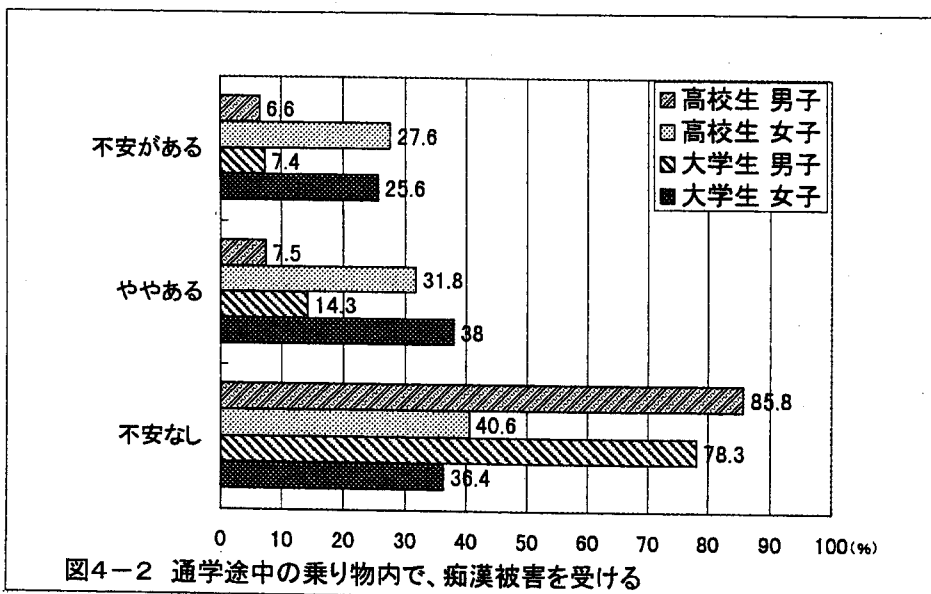
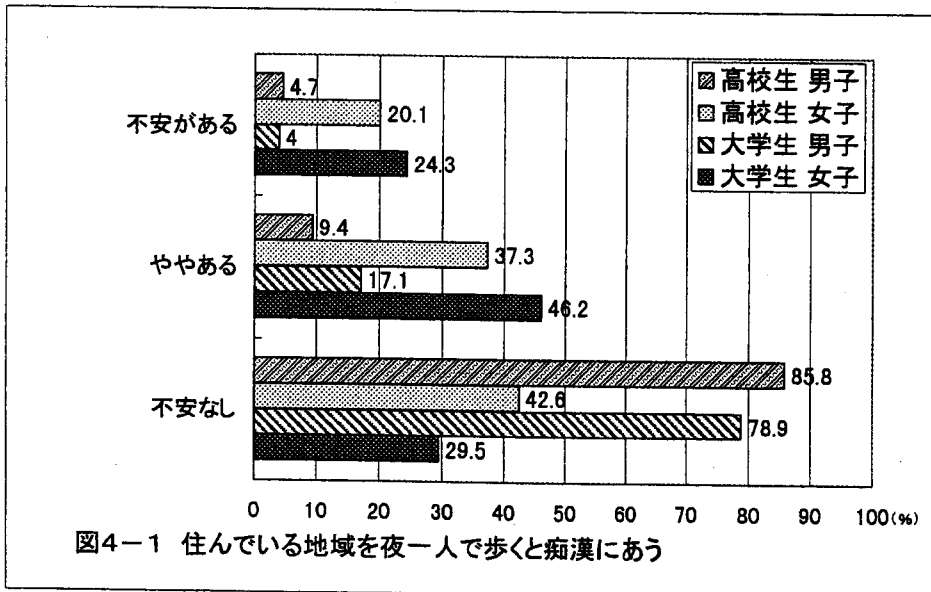
1) 住んでる地域を夜一人で歩くと、痴漢に出会う。(図4-1)

この行いをするに対して、女子で不安なしは、高校生で4割、大学生では3割弱しかない。すなわち女子の場合は、夜の散歩等を地域で志しても大半の女子は、痴漢への不安から一人では、その散歩をためらっている。それに対して男子は高校生、大学生とも、痴漢への不安を持つのは1割程度である。ほとんど

の男子は、少なくとも痴漢への不安から夜の散歩をためらうことはない様子である。

2) 通学途中の乗り物内で、痴漢被害を受ける。(図4-2)

この被害への不安分布は、前問への回答分布とほとんど重なる。すなわち乗り物内にしろ、地域内にしろ、痴漢への被害不安を持つ者は、ほぼ共通しているであろう。ただし痴漢への不安から、地域内の夜の散歩をやめることは出来るが、車内の痴漢への不安があっても、通学をやめることは出来ない。女子に対してこの点、何らかの対策が望まれるところだろう。

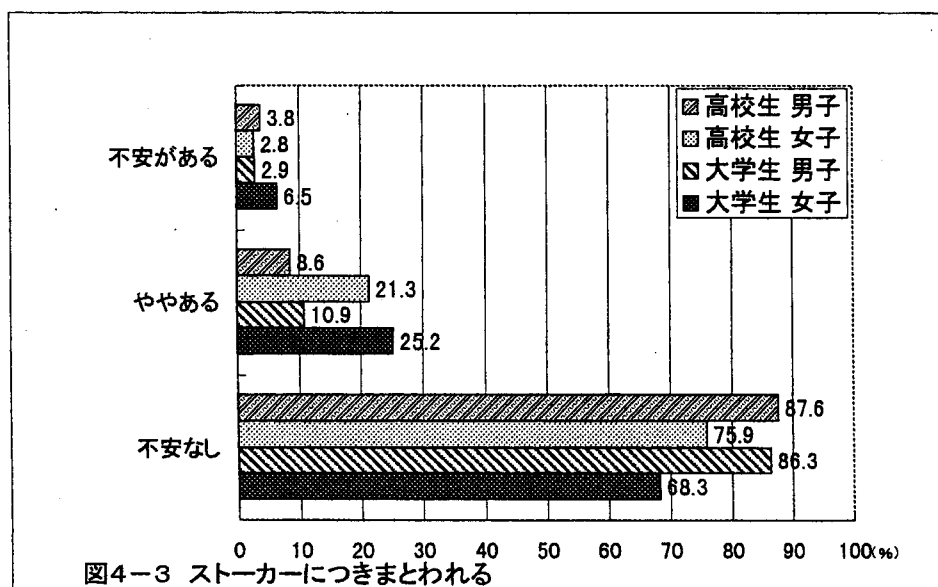


3) ストーカーにつきまといわれる (図4-3)

ストーカーからの被害は、つきまとい・待ち伏せ等、監視、交際要求、暴言、無言電話、嫌がらせ、その他様々な態様があるが、最も多いと思われるのが、つきまといであろうから、ストーカーへの不安の代表としてつきまといへの不安を尋ねた。

今の我が国首都圏の学生で現実的につきまといへの不安を持つ者は、大学生の女子で7%、高校生男女と、大学生男子は3%前後である。ただし「ややある」を加えると、女子では2-3割になり、男子でも1割を超える。これまでのストーカーからの実際の被害体験率(第2章、女子では1割強、男子でも数%ある)とこれら不安率を比べると、現にある不安率は体験者率よりは低い、やや不安・危惧を感じている者の比率は、体験者率よりも高いということになる。不安という現象が、これまでの実際の体験者の世界をよく反映することを示すものだろう。

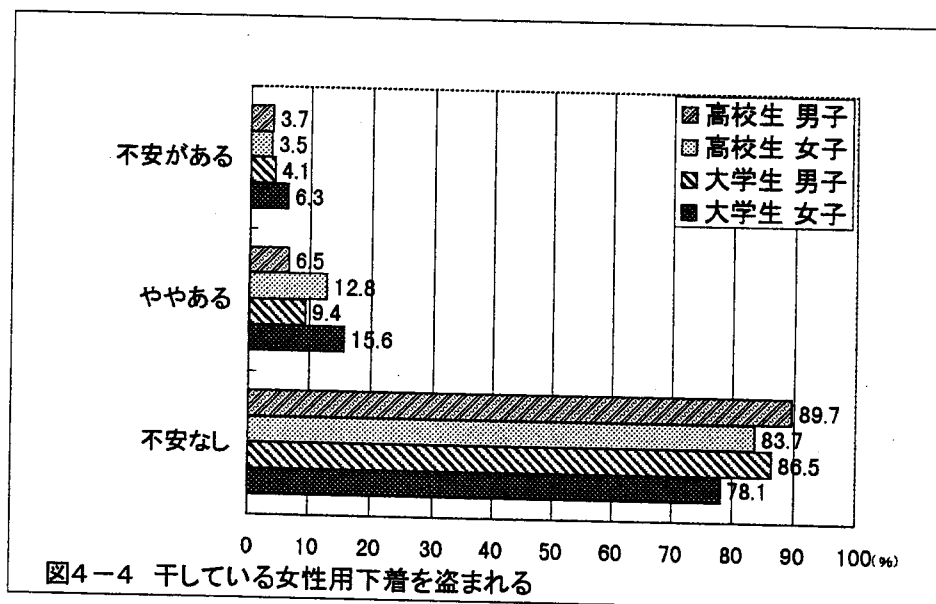
逆にストーカーへの不安なしは、男子の9割弱、女子の7割前後である。



4) 干している女性用下着を盗まれる (図4-4)

この犯罪に対して不安を持つのは、現にあるとややあるを加えて、男子で1割程度、女子でも2割程度である。

女子の場合は、自身の下着が主な対象だろうが、男子の場合は、自分の家族や自分の住む地域一般論としての反応だろう。男女とも設問した不安中もっとも低い。

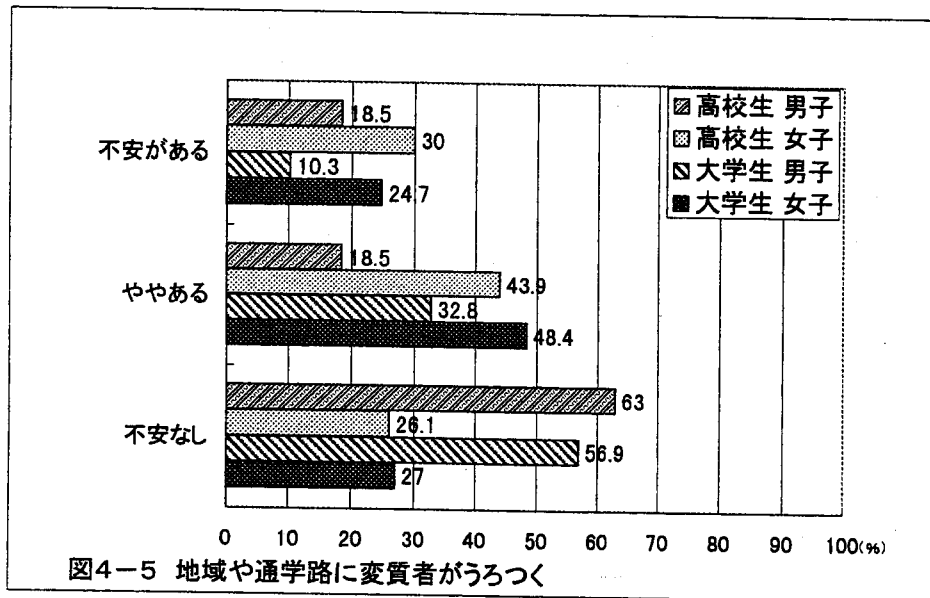


5) 地域や通学路を変質者がうろつく (図4-5)

比較的身近な犯罪被害への不安として設定した7つの場面中、女子ではこの設問への不安が最も高く、男子では2番目に高かった。すなわち女子では3割近くが現在不安を持ち、4割強がやや不安ありと答えている。女子で不安無しは3割以下である。男子でも不安なしは6割程度で、残りの4割は若干の不安を持っている。

この不安対象の典型例は、住居を持たずに地域で生活している浮浪者ではないかと思う。勿論この全てが変質者ではないが、一般の人から見れば、変質者に紛らわしい。そうして近年我が国では、この種の者が地域で生活していることが多く、同時にその種の人への不安が一頃よりも多いのではないか。その一部は又、イメージ的には性的な嫌がらせ等の犯罪と重なることも多いだろう。それ故に男

子よりも女子で不安が更に強い。ただし一方で、このような見方が、ホームレスに対する偏見であるとの意見もあろう。その偏見を持つ若者による浮浪者襲撃事件も近年多く見られた。いずれにせよ、この種の変質者への殊遇の在り方と、人々の偏見の是正の双方が望まれる。

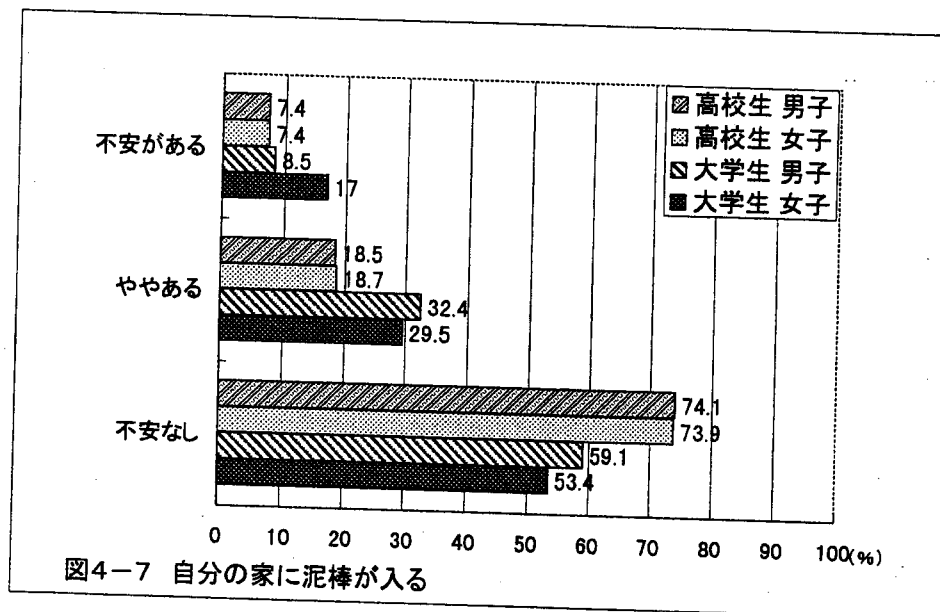
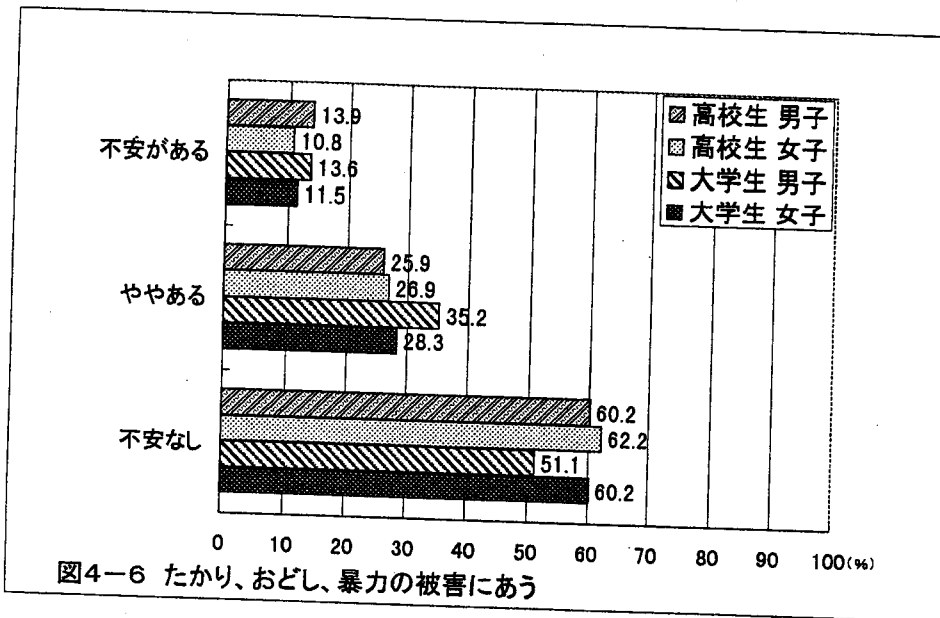


6) たかり、おどし、暴力の被害にあう (図4-6)

この被害不安だけは、女子よりも男子でやや高い。対人的関係の中での暴力的被害は、実際にも若い男子の世界で比較的多く、男子の生活上の犯罪不安の中では、この暴力的犯罪に対する不安が最も高いことになる。

7) 自分の家に泥棒が入る (図4-7)

先に述べたように泥棒とはいわば犯罪の原点であり、それ故その泥棒に対する不安は、犯罪被害に対する不安の原点・基準かと思う。その故か、泥棒に対する不安レベルは、男女で違いが無くほぼ同じである。一方年齢では異なり、高校生でほぼ3割、大学生では4割強になった。多分中学生以下では非常に低く、逆に大人では大学生よりもさらに高いと推測される。その理由は、高校生よりも大学生、さらに大人になれば、財産や自宅等を所有することも多くなり、同時にそれら財産を侵害する泥棒等に対する不安を持つ者も増えるであろうからである。

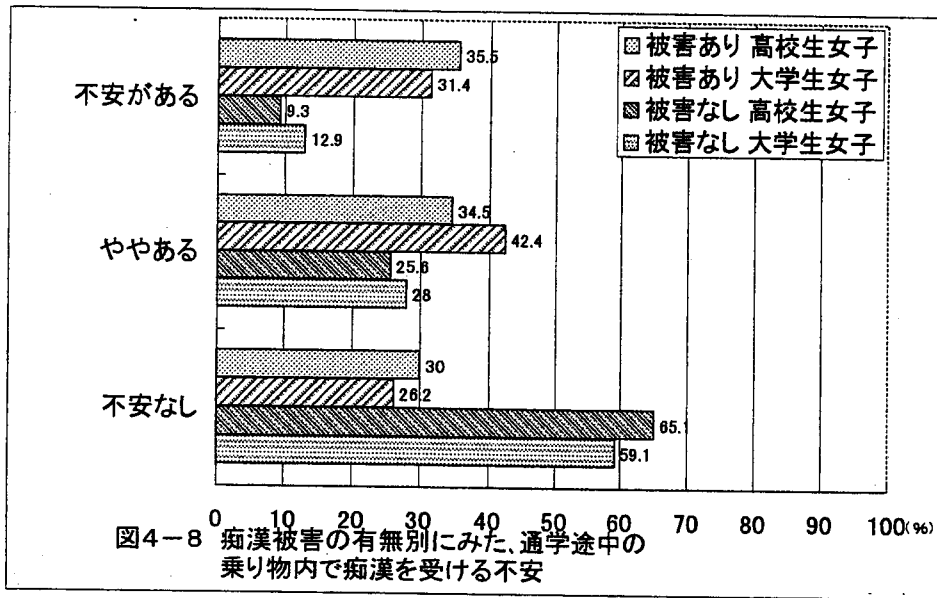


3. 痴漢からの被害体験と、その他犯罪被害への不安感との関係

以上に見るように、女子では痴漢等に対して不安感を示す者が多いが、何故女子が不安感を持つようになったかが問われる。それに対して、過去の痴漢被害の有無と不安の所有が関係するかどうかを分析した。すなわちこれまでの痴漢被害の有無別に、痴漢等への不安感の程度を見た。

<痴漢被害と車中痴漢への不安感>

まず痴漢被害の有無と、通学途中の乗り物内での痴漢への不安の有無の関係をみた。結果は図4-8になる。

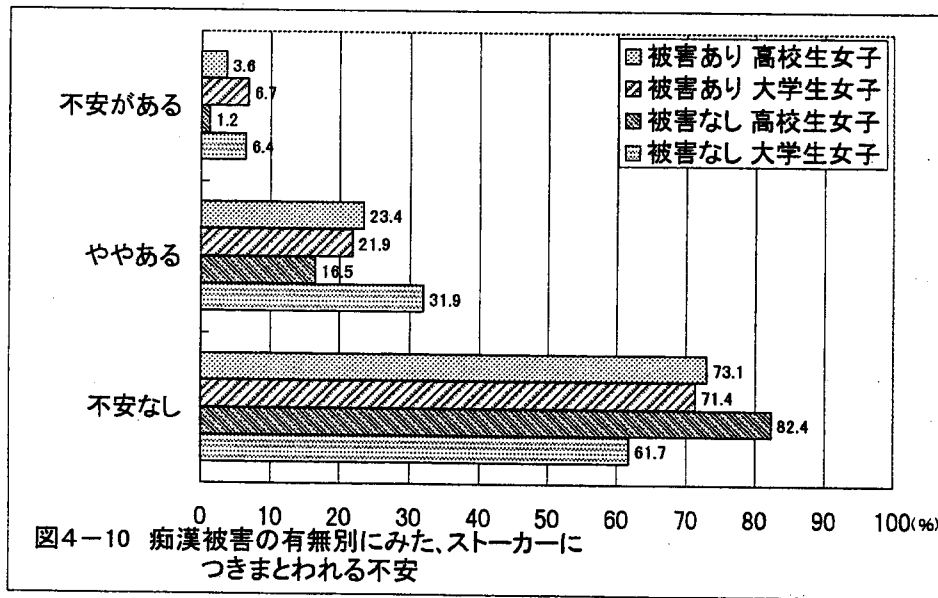
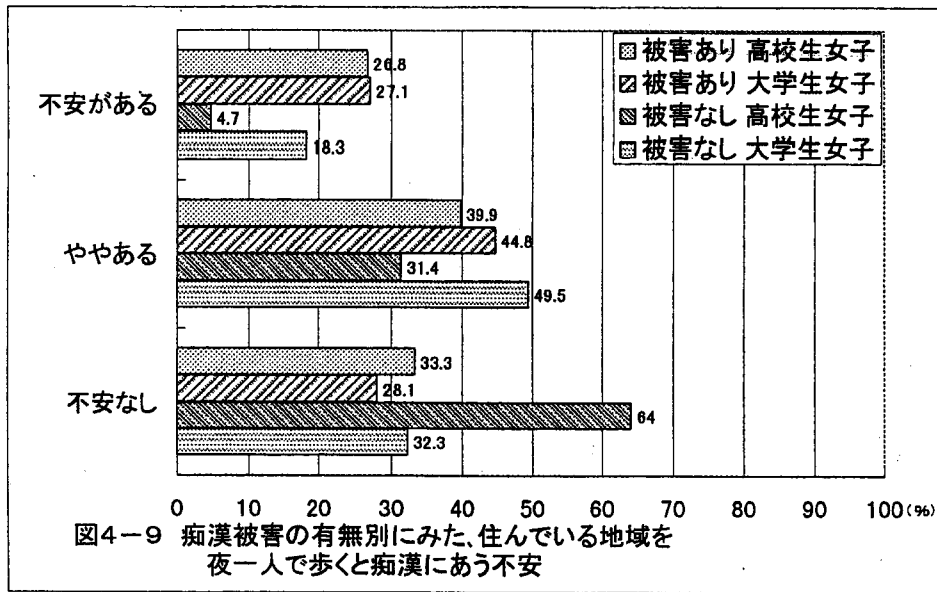


結果は明らかに、これまでに痴漢被害にあった者は、現在通学時の車中での痴漢への不安が多く、逆にこれまで被害の無かった者は、不安が少ない傾向を見せている。すなわちこれまでに痴漢被害にあった者は、現在車中の痴漢に不安有りが7割程度とかなり高く、逆に痴漢被害の無かった者は、現在車中の痴漢に不安有りが4割程度とかなり低い。

これまでの痴漢被害については、通学時の車内が一番多いから、要するにこれまで車中で痴漢に遭った者は、現在もその不安が強いことを示している。

<車中痴漢被害の有無と、地域の痴漢不安及びストーカー不安との関係>

ところで乗り物内で痴漢被害に会うことが多いのであるが、その被害を体験すると、その他の性的被害や、更には犯罪全体に対して不安を強く持つようになるのだろうか。その分析のために、痴漢被害の有無と、各種犯罪被害への不安の程度を見た。その全てを記すのは煩瑣になるので割愛するが、例として痴漢被害の有無と、地域を夜歩く時の痴漢への不安および、ストーカーへの不安の程度を見た。(図4-9、10)



結果で見ると、これまでに痴漢の被害にあった者は、無かった者に比べて、地域において痴漢に遭うことにもやや不安が強い。具体的には、痴漢被害経験者は地域の痴漢に対しても不安有りと3割近くが答え、一方、痴漢被害無し群は、地域の痴漢に不安ありは1割程度にとどまっている。

ただしこの関係（主に乗り物内での痴漢被害体験と、地域の痴漢に対する不安感）は、先に見た同じ乗り物内での痴漢不安との関係ほどには強くない。

更に痴漢体験と、ストーカーへの不安感との関連を見た図4-10でみると、この関連はほとんど無しとみてよい。同様に、これまでの痴漢被害体験とその他の犯罪への不安との間には、ほとんど関連無とみてよい。

まとめ

生活の中で感じている犯罪への不安と、その犯罪の中でも痴漢やストーカーなど近年若い女性の間で話題になることの多い、性に関わる犯罪被害に対する不安の程度を調べた。

取り上げた犯罪不安は7種である。不安の程度は、泥棒に対しては男女でほぼ同じであった。それに対して、性的な犯罪被害への不安は、当然のことながら女性の方が高い。その程度を数値的に把握する試みを示した。

また取り上げた7種の犯罪への不安を、男女別、高校生と大学生の別に比較検討した。

最後にこれら不安感と、過去の痴漢被害との関係を分析した。過去に車中で痴漢被害に遭遇した経験を持つ者は、現在も痴漢への被害を強く持つ傾向にあり、同時に痴漢被害のない者は、現在も痴漢への不安が少ない。また過去に痴漢被害のあった者は、ストーカーへの不安を持つ者が多くなる傾向も見せた。ただしこの傾向は、痴漢への不安ほどには強い関係ではない。さらにその他の犯罪被害への不安との関係を分析した。痴漢被害があった者では、同種の犯罪への不安感を増っしており、同時に類似の犯罪への不安もある程度増加させているが、それら被害体験者が、犯罪全般に対する不安を強めているという傾向は無かった。

